

記事①

球磨村長の不信任可決

村議会 「政治的判断力乏しい」

球磨村議会は定例会最終日の12日、「政治的判断能力に乏しく、村政を進められない」として松谷浩一村長(69)に対する不信任決議案を可決した。松谷氏は地方自治法に基づき、議決の通知から10日以内となる22日までに辞職か失職、または議会の解散を選ぶ必要がある。本会議終了後、報道陣に進退について「議会解散を含めて、全ての選択肢から考える」と話した。【18

球磨村長 不信任決議以降の流れ

不信任案可決

村長が判断 10日以内に議会解散

村長選 (50日以内) 村議選 (40日以内)

新議会による再度不信任決議案

可決 議員 2/3 以上の出席とその過半数の賛成

否決 失職



松谷浩一氏

これに先立つ村議会特別委員会の報告は、6月に改善を求めた村温泉施設「一

勝地交流センターかわせみ」の未払い金問題など5項目について、「従来の主張を繰り返すだけで何の進展もなかった」と松谷氏の村政運営を批判した。

不信任案は議長を含む全議員9人(定数10、欠員1)で採決し、賛成8、反対1で、出席議員の4分の3以上の可決要件を満たした。

6月以来2度目となる上野副村長への辞職勧告決議案も賛成多数で可決した。

不信任となった松谷氏が辞職か失職を選択した場合は50日以内に村長選、議会を解散した場合は40日以内に村議選がある。遅くとも2月までにいずれかの選挙が実施される見通し。

松谷氏は球磨村議を経て20年3月に村長選で初当選し、現在2期目。就任当初から義務教育学校の建設場所や、「かわせみ」の指定管理打ち切り後の対応などを巡り議会と対立していた。村議会は今年6月、松谷氏への辞職勧告決議案を可決したが、松谷氏は続投していた。(金村真太)

球磨村長不信任

課題解決先送りに「NO」

議会判断 評価予断許さず



不信任決議を受け、報道陣の質問に答える球磨村の松谷浩一村長＝12日、球磨村

解説 熊本豪雨からの復興途上にある球磨村の松谷浩一村長に、反村長派が多数を占める村議会が不信任を突きつけた。さまざまな村政課題が未解決のまま停滞しているのは村長の「先送り」と「判断能力の欠如」に原因があるとして、村政からの退場を求めた形だ。【一面参照】

球磨村議会（定数10）には村長派と呼べる議員が1、2人しかおらず、松谷氏は2020年の就任当初から議会との対立や衝突が恒常化していた。

村議会の主張によると、義務教育学校の設置場所を巡る判断が遅れたほか、温泉施設「かわせみ」の指定管理者から業者への未払い

がある問題や、契約を打ち切った一般社団法人の清算金を誰が支払うかなどの問題が先送りされている。

また、村職員をやゆしたと受け止められる発言で、松谷氏が報道陣を呼んで釈明したケースもあった。こうした問題が積み重なって

村議会は6月、村長への辞職勧告決議案を可決し、課題解決や政治姿勢に改善がなければ法的に強制力のある不信任案を提出する可能性も示唆していた。

今回、村議会が不信任案を出した背景には、もともと来年度5月に任期満了を迎えるため、解散となっても選挙の日程が前倒しになるだけで大きなデメリットは発生しないという見通しもあったようだ。

ただ、松谷氏の行政運営に「発退場」となるような決定的なミスや不祥事があつたかどうかは見解の分かれるところだ。不信任という「伝家の宝刀」を抜いた村議会の判断を村民がどう

松谷浩一村長に対する不信任決議案を可決した球磨村議会



う評価するのか、予断を許さない。

球磨村は豪雨災害からの復興や人口減少への対応など課題が山積するだけに、傍聴した男性（78）は「村民不在の政争にも映る。今後どうなるかは分からないが、村のトップはしっかり復興の先頭に立ってほしい」と切実に訴えた。

（金村貴太 東寛明）

今後の進退 全ての選択肢検討

球磨村の松谷浩一村長に対する不信任決議案が12日、村議会でも可決された。本会議後の松谷村長の「一問一答」は次の通り。

（熊川果穂）

「不信任決議への受け止めと今後の進退は。」

「真摯に受け止めている。進退は10日間のリミットの中で、議会の解散も含めて全ての選択肢の中で考える」

「決議の中で、村議会から「自分が正しい」と強引に物事を進めた」と指摘された。

「感覚の差だと思う。私としては議会

松谷村長 一問一答

の質問に対してしっかりと答えてきたつもりだ。それがなかなか理解してもらえなかった」

「最近、幹部職員からリーダーシップを取ってほしいと改善を求める意見があつた。職員との信頼関係の構築に向けて、一歩一歩前進していかなければならない中で、うまくできなかったことは反省している」

「不信任決議は極めて重い。進退は何を基準に判断するのか。」

「これからの村政において、村のため何が一番良いのかを基準にしっかりと考える」